

日本語学習者の言語能力から 作文特性と語彙産出を解析する



日時：2019年1月26日(土曜日) 13:00-15:30

場所：名古屋大学全学教育棟・北棟406号室 参加自由，無料



講演者①：玉岡 賀津雄 (TAMAOKA, Katsuo)

名古屋大学大学院人文学研究科教授

● コーパスは、個人の特性を含まず全体として頻度や表現を計算することが多いようです。しかし、教室内の日本語学習者の作文や語彙の産出をコーパスとして扱い、日本語学習者の言語能力の特性を含んで分析するにはどうすればよいのでしょうか。この講演会では、日本語学習者の個々人のデータを活かしたコーパスデータの検索、データ編集、統計解析を紹介します。



講演者②：楊 艶萍 (YANG, Yanping)

中南林業科技大学外国語学院日本語学部講師・学部長
名古屋大学・学術研究員 (2018年10月から2019年9月)

● 中国で日本語を学習する大学生26名の作文コーパスを分析した結果を報告します。作文と共に、文法テスト(早川・玉岡, 2015)を実施しており、文法能力から作文のコーパス特性を分析します。作文の特性としては、リーダビリティ、各作文の1文内での平均語彙数、品詞・語種別頻度を産出して、これらを文法能力で予測して、学習者の作文の特性を検討します。



講演者③：連 路 (LIAN, Lu)

上海外国語大学・日本文化経済学院・博士後期課程3年
名古屋大学・交換留学生 (2018年10月から2019年3月)

● 和語動詞は多義であり、プロトタイプ的な概念から拡張して多様な意味で使われるようになっていわれています。日本語学習者もそのような流れで学習しているのでしょうか。「Xを持つ」「Xを握る」「Xを抱える」のそれぞれのXの目的語を2分間でできるだけ書くという方法で、上海の大学の中国人日本語学習者81名に調査しました。

また、同時に語彙テスト(宮岡・玉岡・酒井, 2011)を行っており、語彙能力と和語動詞の語彙産出との関係を解析します。

問い合わせ先：名古屋大学・玉岡賀津雄 (Katsuo Tamaoka) tamaoka@nagoya-u.jp